

元治元年十二月十八日より元治元年十二月二十二日まで

P8311209 right

不在に付先づ返書遣し歟と旨、箱館平山より鮭二□贈り越す旨、岡本せき菓子折、揚物等を持参酒飯を設く、永持家作譲り渡の儀に付、周助へ命じ地主能勢方へ申入□□
十九日戌 晴雲

永持へ能勢の挨拶向申遣す、出 殿、広沢(悦)寒見舞に來り、小品持参し旨、保三來る、藤山稽古に來る

廿日亥 晴風

出 殿、黄窪より歳暮使さし越、煙草一筥、自在餅*1)一重、婢等へ二百疋を贈らる、神田年の市へ

買入品取入れ遣す、太郎遊歩として行く

廿一日子 晴

出 殿、牛姑歳暮に來り、鱒一尾、岩槻葱肴一方持参せし旨、今井より花曆十葉

P8311209 left

(此曆 永持、牛込、富沢、松盛齋、□野谷(に)

を贈らる、江連(加)より金港御用状添□□出府の儀申立の段云々申越す

廿二日丑 晴

宅調、今晝加州より届し書類、菊池(豫)へ廻達す、年糕*2)を春(つ)く八寸取二、五寸取五、小八七寸取一のし七数(用人分)、六寸取一のし五給人分、五寸取一つのし二数つ、五寸一つのし一つ、(中番門番別当小遣分)六寸取

のし七数づつ(部屋七人分)、五寸取一馬分、当日中小姓迄自在糕を遣し、部屋別当小遣等一同へ一升程

の春糕を遣す、なまこ一臼(其余は都てのし也、牛込へ自在を贈る、保三來る、□野谷へ新曆二枚為持遣す、寺山へ留る見舞歳暮賀等を兼て使遣す、須崎(金)來り柑子を贈らる
且孫女多かよりの雁書へ焼ふを添え京地□良よりの□状外に古今集かるた□□如來持参白酒肴を設く、挙家の歳暮賀銀を配□す、周助以下部屋迄の続分を渡し、且手当□等を遣す

*1:自在餅、あんころ餅の大きなもの

*2:年糕(こんがう)、香港の正月料理(餅)のようす。

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。 12,

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。